

神奈川歯科大学 同窓会会報

Kanagawa
Dental
College
Alumni

第98号 ©発行人/藤田 晃
2004. 5. 10 ©編集人/小篠一雄・広報委員会
©印刷所/神奈川新聞社出版局

会長挨拶

母校の校庭の桜が七分咲きです。会員諸氏におかれましてはお元気で、ご活躍のことと拝察する次第であります。平素からの本会へのご理解とご協力に感謝を申し上げます。現在、執行部役員は一丸となって会員諸氏のご期待に沿うよう、会務に邁進しているところであります。

先日は例年の通り、第35回生の卒業を祝ってきました。120名の卒業生のうち、同窓生のご子弟は49名とのことでありました。心からお祝いを申し上げます。多数の同窓生が保護者の立場で出席されており、短い時間ではありましたが、お互いに喜びを分かち合うことができました。そして、今回は卒業生から卒業謝恩会への招待を受け、我々執行部役員は大挙して出席してきました。これからの歯科医療界を担う、また同窓会を担う若人との交歓は大変意義深いものでありました。会場では卒業生を中心にして、教育現場担当の先生方、学長先生、大学理事諸氏、そして我々同窓会役員の面々が各々の立場で祝意を表わし、激励し、意見交換をおこない、極めて有意義な時間を共有することができました。その甲斐あって、その翌週には5名の卒業生が同窓会への入会を希望してきたとの報告がありました。今後もこのような行事には積極的に参加して、同窓会のスタンスを再確認し、各方面にアピールするように務めなければならないと、あらためて執行部の責任の重さを感じさせられたものです。

しかし一方では、120名の卒業生の同窓会への入会率は50%であり、そのうち同窓生子弟の入会率は42.9%という数字も明らかになっています。我々



同窓会会長
藤田 晃

はこの現実を真摯に受け止めなければなりません。

この4月7日には、第41期生の入学式が予定されています。これからの歯科医療界を背負ってゆく若人達の門出を祝福したいと思います。そして彼らの将来が夢と希望に満ちたものとなるように我々はその礎となるべく汗を流さなければなりません。来たる入学式当日には、同窓生5,363名を代表して祝辞を述べることになっています。若人達が有意義な学生生活を送ることができるように我々は父母会とは異なる立場で彼らを応援し、6年後の栄冠獲得を期待したいと思います。

現今、多事多難ではありますが、「論語」に「民、信なくんば立たず（民無信不立）」とあります。言い換えれば、会員の信頼がなければ会そのものが成り立たなくなる、ということになるでしょう。状況が厳しくなってこそ、真の「信」有無が問われてくるのであります。母校の更なる発展と会員諸氏のご健勝を心より祈念申し上げます。

（満開の桜の下にて）